

## 第6回 停止時P S A分科会 議事録

1. 日時 2008年1月28日（月） 13:30～17:00

2. 場所 仏教伝道センタービル 7階 「見」会議室

3. 出席者（敬称略）

（出席委員） 福田（主査, JNES）, 村松（副主査, JAEA）, 今井（幹事, 東電）, 伊東（JNES）, 植田（電中研）, 織田（日立）, 桐本（原技協）, 倉本（NEL）, 栗坂（JAEA）, 坂田（MHI）, 水野（須之内委員代理, 保安院）, 多田委員（東北電）, 成宮（関電）, 橋本（東芝）, 三浦（JNES）, 御器谷（保安院）, 門谷委員（原電）, 米山（TEPSYS）（18名）

（欠席委員） 幸田（京大）, 高野（慶応大）, 松岡（宇都宮大）（3名）,

（常時参加者） 阿部（TEPSYS）, 倉沢（CTI）, 高木（原技協）, 友澤（四電）（4名）

4. 配付資料

P1Ph2SC6-1 第5回停止時P S A分科会議事録（案）

P1Ph2SC6-2 発電炉専門部会 停止時P S A分科会活動状況

P1Ph2SC6-3 実施基準（案）へのコメントおよび対応方針（案）

P1Ph2SC6-4 停止時レベル1 P S Aに必要な情報と評価結果について

P1Ph2SC6-5 停止時リスク情報の原子力発電所定検工程管理への活用

P1Ph2SC6-6-1 米国停止時安全管理資料

P1Ph2SC6-6-2 米国停止時安全管理資料（英文）

P1Ph2SC6-7-1 実施基準案比較表（第1章 本文）

P1Ph2SC6-7-2 実施基準案比較表（第1章 解説1.1）

P1Ph2SC6-7-3 実施基準案比較表（第1章 解説1.2）

P1Ph2SC6-7-4 実施基準案比較表（第1章 解説1.3）

P1Ph2SC6-7-5 実施基準案比較表（第1章 解説1.4）

P1Ph2SC6-7-6 実施基準案比較表（第1章 解説1.5）

P1Ph2SC6-7-7 実施基準案比較表（第3章）

P1Ph2SC6-7-8 実施基準案比較表（第4章）

P1Ph2SC6-7-9 実施基準案比較表（第5章）

P1Ph2SC6-7-10 実施基準案比較表（第7章）

P1Ph2SC6-7-11 実施基準案比較表（第8章）

P1Ph2SC6-7-12 実施基準案比較表（第11章）

P1Ph2SC6-7-13 実施基準案比較表（第12章）

P1Ph2SC6-7-14 実施基準案比較表（第13章）

P1Ph2SC6-7-15 実施基準案比較表（第14章 本文）

P1Ph2SC6-7-16 実施基準案比較表（附属書1）

## 5. 議事

### （1）出席者確認，資料確認

今井幹事により，全委員数21名のうち18名出席であり，本分科会の定足数を満たすことが確認された。

また，議事次第に基づき配付資料の確認が行われた。

### （2）人事関係

黒岩委員の退任および，それに代わる坂田委員を推薦することとなった。

### （3）前回議事録確認

今井幹事より，P1Ph2SC6-1により第5回停止時PSA分科会の議事録の説明が行われ，議事録として承認された。

### （4）発電炉専門部会（1/23）の概要報告

今井幹事より，P1Ph2SC6-2により発電炉専門部会（1/23）での分科会の状況報告内容の紹介が行われた。

#### 1. 実施基準（案）へのコメントおよび対応方針（案）

今井幹事より，P1Ph2SC6-3により実施基準（案）へのコメントおよび対応方針の説明が行われた。

### （6）実施基準（案）（本文及び解説）および関連資料の紹介

●各担当よりP1Ph2SC6-7-1～16により実施基準（案）について説明が行われた。（7-1:今井幹事，7-2,6～9,14:倉本委員，7-3,5,10,11,15,16:米山委員，7-4,12,13：橋本委員）

●途中，リスク情報の活用事例等の紹介がされた。

・伊東委員より，P1Ph2SC6-4によりJNESにおける停止時レベル1PSAの考え方（【/炉年】による評価，人的過誤率）の紹介が行われた。

・成宮委員より，P1Ph2SC6-5により関西電力での停止時リスク情報の定検工程管理への活用事例の紹介が行われた。

・村松副主査より，P1Ph2SC6-6-1，2により米国における停止時の安全管理について事例の紹介が行われた。

主な議論は以下のとおり。

○P1Ph2SC6-7-1「まえがき～第1章」

・「まえがき」に「品質ガイドライン」の性能規定に対する学会標準としての仕様規定化に関する記述が抜けているの

で、簡潔な記述で記載することを検討することとした。

○P1Ph2SC6-7-4「解説1.3」

- ・現行の標準にある海外での議論の経緯等について記載の要否について検討することとした。

○P1Ph2SC6-7-6「解説1.5」

- ・リスクの比較をする場合、比較の対象によっては【/h】を使ったほうがよい場合もあることから、「解説1.4」では「【/炉年】，【/定検】」と断定しているので、実施基準としては必要に応じてアレンジできるように「【/炉年】，【/定検】など」とすることとした。
- ・P1Ph2SC6-5の内容について国内、海外における停止時のリスク活用の具体的事例紹介の位置づけとして記載することを検討することとした。
- ・停止時（停止状態）を定義する記載箇所（本文あるいは解説のより前段）について検討することとした。
- ・「まえがき」の内容について、その他の標準も策定されてきていることから、原子力学会として体系的な内容を記載することを検討することとした。

○P1Ph2SC6-7-9「第5章」

- ・評価対象期間の設定に関する記載箇所の変更要否（第5章→第1章）について検討することとした。

○P1Ph2SC6-7-12「第11章（本文）」

- ・策定中のパラメータ実施基準との関係について、同基準が策定後であれば、それを呼び込む内容でもよいと考えられるが、現状は策定中なので、出力時レベル1PSA実施基準の内容に停止時PSAでの注意事項を追加した内容を記載することとした。

○P1Ph2SC6-7-13「第12章（本文）」

- ・「12.4評価結果のとりまとめ」に停止時PSAでは不要なものがあるので、停止時PSAに必要なものを考慮して修正することとした。

●次回の分科会では、本日の議論とあわせて一度、標準案を通してみることにする。また、本日のコメントとあわせて期限を決めてコメントを受け付けることとした。

(22) 今後の予定

次回の分科会を2/12午後を開催することとした。

また、3月の発電炉専門部会での中間報告に向けてのコメント対応等の作業会を2/25で調整することとした。作業会には文案作成している担当者に限らず、希望する委員にも参加してもらい標準案の修正について議論することとした。

